

学生主体のエコアクションで 海洋プラスチックゴミ問題の意識を高めるプロジェクト

発表者:AZ CONNECT 伊藤 昇

目次

- ・グループについて
- ・プロギングについて
- ・取り組みの背景
- ・海洋プラスチックゴミ問題について
- ・取り組みの概要
- ・活動記録
- ・アンケート結果
- ・今後の展望
- ・告知
- ・参考文献



グループについて

AZ CONNECT

- ・学生プロギング団体
- ・中京大学 芦塚ゼミ発祥(2024/4/17発足)
- ・名前の由来→A～Zまで繋ぐ(多くの人を繋ぐ)
- ・メンバー構成(4年4人 3年7人)

メンバー一覧

4年

- ・結城颯太
- ・新藤琉人
- ・笠村悠翔
- ・杉江ひかる

3年

- ・伊藤昂
- ・加藤颯悟
- ・橋本雅知
- ・福島菜々美
- ・杉浦愛梨
- ・山本ちなつ
- ・佐藤まりあ

プロギングについて

プロギング

- ・ジョギング×ゴミ拾いのNEWフィットネス
- ・スウェーデン発祥
- ・地域や環境に貢献
- ・参加者間で交流が生まれる仕組み
- ・何より楽しむ！

ナイス！



※名古屋六大学Progging

プロギングについて

事前準備

①ルート設定

→スタートゴールの設定・目的地設定・安全面考慮・距離やゴミの量意識(1時間約3km目安)

②集客＆グループ設定

→イベント目的にあった集客(ターゲット選定)・人数や構成の設定(1グループ10名以下推奨)

③用具準備

→軍手・ゴミ袋・重量計測用吊はかり・(トング)・(レクリエーション用道具)

取り組みの背景

- ・**きっかけ**

→大学の講義内で、深刻化する海洋プラスチックゴミ問題に触れ、興味を持ったから

- ・**目的**

→学生主体のプロギング活動を通じて、海洋プラスチック問題の意識を高める

→プロギングを通じて年齢・性別・立場・国籍を超えた交流を生み出す



スポーツSDGsを活用し、海洋プラスチック問題にアプローチ

海洋プラスチックゴミ問題について(※)

・現状

- 毎年約800万tのゴミが海に流出している
- 現在約1億5000万tのゴミがあると予測されている
- 海洋ゴミの約8割が陸から海に流れ出ている
- 2050年には海洋ごみの量が魚の量を超えると言われている



※日間賀島

・影響

- プラスチックが分解されてマイクロプラスチックになる(水質汚染)
- マイクロプラスチックを魚が食べ、魚を人が食べることで身体に悪影響を及ぼす(生態系破壊)

取り組みの概要

イベント



※名古屋六大学プログラミング

展示会



※SPORTEC2024

講義



※中京大中京高校

活動記録(2024年4月～2025年3月)

イベント

計**20回**プロギング実施

例)

- ・名古屋六大学
- ・MUFG合同
- ・中京大中京部活動
- ・中京大学体育会スキーパーク
- ・日間賀島
- ・パロマ瑞穂スポーツパーク

展示会

計**7会場**展示

例)

- ・SPORTEC2024
- ・環境デー名古屋2024
- ・アジア大会2年前イベント
- ・SDGsフェスティバル

講義(プレゼン)

計**10回**実施

例)

- ・大学講義プレゼン
- ・中京大中京高校授業
- ・SDGs AICHI EXPO
- ・豊岡学区説明会
- ・地球を愛する学園祭

活動記錄



活動記録(全体スケジュール)

	イベント	展示会	講義(プレゼン)
4月	2回	0回	0回
5月	2回	0回	1回
6月	2回	0回	3回
7月	1回	1回	0回
8月	0回	0回	0回
9月	2回	2回	0回
10月	3回	2回	2回
11月	3回	2回	1回
12月	1回	0回	2回
1月	1回	0回	0回
2月	2回	0回	1回
3月	1回	0回	0回

【特徴】

- ・夏は高気温と休み期間が原因で活動減少傾向にあった。
- ・10～12月はイベントの枠組みが完成し、比較的多くの活動を実施できた。
- ・展示会については、外部のイベントに参加する形の為、イベントの有無に左右される傾向にある。

活動記録



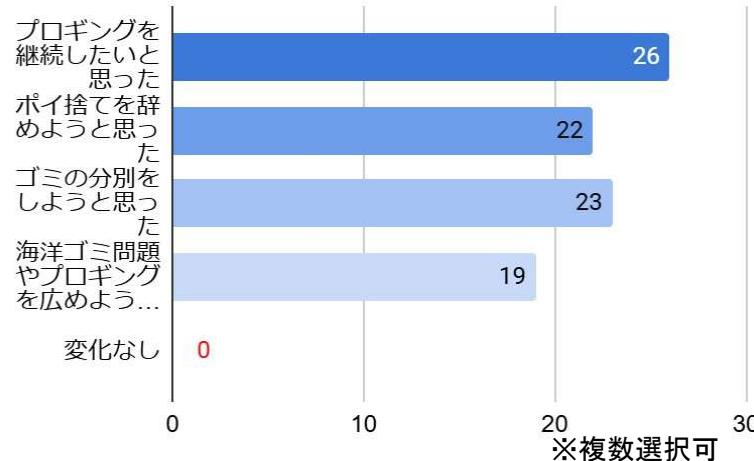
Tシャツデザイン案

【アップサイクル】

- ・海洋プラスチックゴミ問題の根源であるプラスチックゴミ(主にペットボトル)をアップサイクルする取り組みに挑戦。
- ・プロギングで拾ったペットボトルを素材に変え、Tシャツにする取り組み。
- ・豊島(株)様のご協力のもと、2025年4～6月頃の完成を目指しTシャツの制作に取り組んでいる。

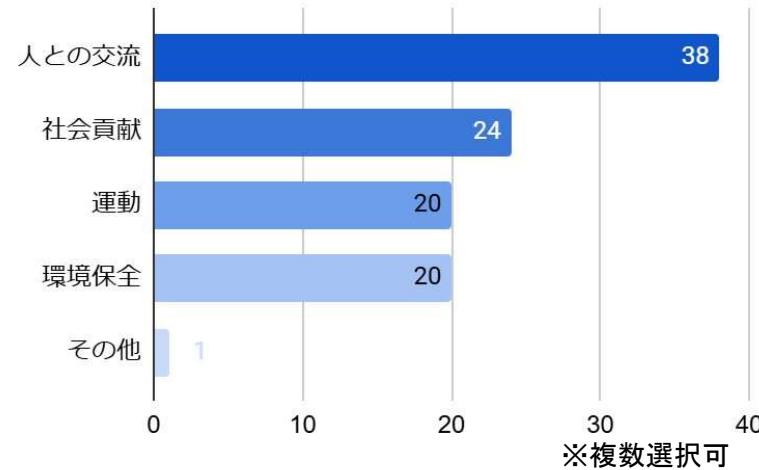
アンケート結果

N=61



Q1 今回のプログラミングを通じてゴミ問題への意識に変化はありましたか

N=61



Q2 プログラミングの楽しかったところはどんなところでしたか

→意識改革・交流の生み出すという目的を達成

今後の展望

活動の持続

- ・2024年度の活動経験を元に、今後も継続して活動を行う。
- ・新規メンバーの募集や各ステークホルダーとの関係構築を通じて、AZ CONNECTの存続を目指す。

内容の充実

- ・海洋プラスチックゴミ問題について論文で調査し、説明を精査していく。
- ・参加者に理解されやすい説明を作成し、形として残す。
- ・プロギング実施後のアンケートを活用し、より楽しめる様に改良していく。

規模の拡大

- ・プロギングの回数や参加者数、新規参加者を増やし、より多くの人の意識改革を目指す。
- ・行政や教育機関、企業と連携し、活動実績を付けることで、より多くの人々に注目されることを目指す。

→参加者全員が楽しめる活動を持続していく

告知

①中京大学HP掲載



②インスタグラム



③連絡先

・インスタグラム



・メール

AZ CONNECT】
azconnect.0417@gmail.com

【伊藤 昂】
j622006@m.chukyo-u.ac.jp

※参考文献(スライド7枚目)

- ①McKinsey & Company and Ocean Conservancy (2015)
- ②WORLD ECONOMIC FORUM(2016)
- ③Barnes, David KA, et al.(2009)
- ④NOAA Marine Debris Program, Ocean Conservancy, SC Sea Grant
- ⑤Eriksen, Marcus, et al.(2014)
- ⑥GESAMP (2015)
- ⑦do Sul, Juliana A. Ivar, and Monica F. Costa. (2014)
- ⑧Orb Media (2017)
- ⑨Yang, Dongqi, et al.(2015)

①:1億5000万t・陸から約8割 ②:800万t・2050年 ③～⑨:マイクロプラスチック